

# 平成28年度第5回 印西市市民活動推進委員会 企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査） 会議要旨

1. 開催日時 平成28年10月7日（金） 午後12時30分～4時25分
2. 開催場所 文化ホール 大会議室・多目的室
3. 出席者 粉川一郎委員長、植本崇委員、大和正明委員、安倉史典委員、  
玉井和幸委員、北村倫子委員、大野定俊委員、浅賀博委員、  
奥野不二子委員、志村はるみ委員 以上10名
4. 欠席者 桑田佳雄委員
5. 発表者 提案者6名（質疑応答：関連部署職員7名）
6. 事務局 市民活動推進課 飯塚参事、伊藤、杉山
7. 傍聴者 12名（定員20名）  
※議題（1）・（2）については、印西市情報公開条例第7条第5号により非公開。

## 8. 会議内容

- (1) 平成28年度企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査）／  
スケジュール及び評価の確認について
- (2) 平成28年度企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査）／  
事前書類検討について
- (3) 平成28年度企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査）
  - ①プレゼンテーションの進め方と審査方法等の説明
  - ②プレゼンテーション
    - 提案1 道作古墳群歴史広場の維持管理事業  
(NPO法人小林住みよいまちづくり会)
    - 提案2 竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業  
(NPO法人エコネットちば)
    - 提案3 印西市木下地区歴史講座（木下まち育て塾）
    - 提案5 地域住民への身体活動増進プログラム（ALipro）
    - 提案7 アドラー心理学による「勇気づけコミュニケーション」の  
すすめ (勇気づけサークルでこぼこピース)
  - ③審査結果発表・講評

## 9. 審査記録

- (3) 企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査）
  - ①プレゼンテーションの進め方と審査方法等の説明

## 事務局説明

- ・本日の審査会の進行について説明した。また、アイデア審査を通過した提案4「荒れた里山の整備事業」については、協議段階で提案者から提案の取り下げがあったことを報告した。

## ②プレゼンテーション

### **提案1 道作古墳群歴史広場の維持管理事業（NPO法人小林住みよいまちづくり会）**

#### 提案者の発表

- ・パワーポイントを使い、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

#### 質疑応答

（質問）年間事業スケジュールに記載されている参加人数は、作業ボランティアの人数ということでよろしいか。これだけの人数を集める仕組みのようなものがあるのか。

（提案者回答）4月と11月の道作古墳群見学会については、当日参加するお客さんの人数、その他は作業に従事する人数である。会員は60名程いるが、実際に作業ができる人材は20名程度であり、そのメンバーに作業前に募集メールを流して集めている。保険のリストに入っているのもこのメンバーである。

（質問）歴史広場にトイレはないのか。

（提案者回答）見学会イベントのときには仮設トイレを設置しているが、常設のトイレはない。近隣には、小林牧場や平岡自然の家にトイレがある。

（質問）パンフレット（瓦版）は900部発行しているとのことだが、あまり見かけない。ぜひ他の町内会にも広めていただきたい。製作費用もかかっているので、市の助成があってもいいのではないか。

（提案者回答）ウェブの印刷会社を使い、A3版900部で9,000円程度の出費である。

（質問）広報活動は年何回程行ったのか。市に確認したい。

（生涯学習課回答）春の見学会と秋のウォークラリーの参加者募集記事を市広報に掲載するほか、イベント参加者には古墳の紹介パンフレットを配布している。

（質問）単なるイベント案内だけでなく、市民に対し広く古墳の文化的価値や維持管理の活動内容が伝わるよう協働で周知を図っていただきたい。

（提案者回答）団体のホームページでも紹介している。検索エンジンで道作古墳群と入れると団体名が上位でヒットする。

（質問）団体ホームページの活用は市と一緒により戦略的に進めていただきたい。配布資料のイメージ図はどのように活用されているのか。

(提案者回答) 会員への配布や、瓦版と一緒に町内会の回覧で回している。地元の小学校でも活用するよう教頭先生とも話しをしている。

## 提案2 竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業 (NPO法人エコネットちば)

### 提案者の発表

・パワーポイントを使い、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

### 質疑応答

(質問) 当初は志があった方が集まったものと思われるが、後継メンバーは育っているのか。

(提案者回答) 協働事業がはじまってから8年目だが、新しい会員は入っておらず、当初のメンバーのままである。現在の平均年齢は64歳で、活動を継続する上で一番の悩みとなっている。花植えはボランティアの方に手伝っていただいているが、機械の操作は慣れないとできないので、若い方に加わってもらいたいという思いはある。

(質問) 調整池内の水草除去や歩道の修繕といった協働事業以外の課題について、市とどのように協議しているのか。また、協働事業の中でそうした課題に取り組む考えはあるか。

(提案者回答) この事業は調整池の周辺環境を整備する取り組みで、調整池本体の維持管理は原則市が管理している。

(都市整備課回答) 調整池でも護岸に近い一部範囲の水草除去については、水質改善の名目で協働事業として実施している。歩道の修繕については、現在市で対応の検討を行っている。

(質問) 健康増進に利用できる場とすることを今後の展望に掲げているが、実際にそうした取り組みを行う予定はあるか。

(提案者回答) 冬場に簡単なウォーキング大会を実施したいと考えている。

(質問) 事業経費内訳書には、提案者が負担する無償労働力が1,552,300円、無償分を含めない合計が3,145,000円となっており、年間事業スケジュールの必要経費が314.5万円と記載されているが、これはどういうことか確認したい。

(提案者回答) 歳入で市に負担を求める額が3,095,000円、提案者負担分が50,000円で、合計額が3,145,000円となり、無償分を含めない合計額となる。

(質問) 非常によい事業なので、健康増進の拠点づくりといった観点も取り入れながら、今後も継続できるように市と積極的に検討していただきたい。

(提案者回答) そのようにしていきたい。

## 提案3 印西市木下地区歴史講座 (木下まち育て塾)

## 提案者の発表

・パワーポイントを使い、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

## 質疑応答

(質問) 過去の講座受講者に対するフォローアップを計画されているか。

(提案者回答) これまでに100名近くの修了者がおり、事業の案内は出している。

団体では5年に一度の割合で企画展を行っており、長期的には、そうしたイベントの準備で協力してもらえよう取り組んでいきたい。

(質問) 会員や講座受講者が積極的に外に出てさらに交流が進むような、新たな展開を期待したい。

(提案者回答) 市民の交流は大変重要であり、そのきっかけづくりを進めていきたい。

(意見) 会場となる蔵のキャパシティの問題や、参加者が高齢者中心となる点は理解しているが、広報も含め、もう少し対象者が広がるよう企画の立て方を工夫していただきたい。

(質問) 木下河岸の歴史に加え、例えば文学など多様な講座テーマをとり入れていただきたい。

(提案者回答) 夏期特別講座では大学教授クラスに講師依頼し、通常とは異なるテーマで実施したいと考えている。次年度以降も、多くのテーマが取り上げられるよう配慮していきたい。

(質問) 歴史マニアの集まりのように聞こえる。そうした事業に公金を投入して市の協働事業とすることに問題はないか。

(提案者回答) 歴史を学ぶことはまちづくりの原点だと考えている。吉岡の蔵を保存できたのもわれわれがまちの歴史を正しく学んだ結果であり、単なる流行りや興味本位の取り組みだとは考えていない。

(質問) 積算費用が例年に比べ増加しており、特に人件費の割合が半分ほどを占めている。参加者が限られると思われる木下街道を歩く企画は見直しするなど、予算の再検討はできないか。

(提案者回答) 木下街道を歩く企画は講座の趣旨から必要だと考えている。

(質問) 市の支援とは具体的にどのような内容を指すのか。

(提案者回答) 他市の学芸員に講師依頼するに当たり、市民活動団体の名義だけでは信用が得にくい中、市に協力してもらうことは大変効果的であり、大きな助けとなっている。

(質問) 講師謝金は学芸員に支払う費用ということでよいか。

(提案者回答) 公務で来る学芸員に謝礼を支払う予定はない。委託費に計上している講師謝礼は、個人として来る大学教授や学芸員に対するものである。

(生涯学習課回答) 公務で依頼する講師には交通費程度の支給と考えている。個人で

来る方には委託費の中で講師謝礼を支払う。市の予算から直接支払うことはない。

## 提案5 地域高齢者への身体活動増進プログラムの提供（ALipro）

### 提案者の発表

・パワーポイントを使い、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

### 質疑応答

（質問）参加者数は60名となっているが、予定より増減があった場合はどうするつもりか。また、東京電機大学や順天堂大学との連携となっているが、その具体的な内容を教えていただきたい。

（提案者回答）順天堂大学には体力測定の実施で協力いただく予定であり、委託費として積算している。私自身が職員である東京電機大学とは、歩数計などのデータ集計・分析や新しいシステムの情報共有で連携を図っていく。参加者については、市の広報で募集するほか、健康診断でリスクの高い方に働きかけていければと考えている。参加者が多かった場合は抽選などの方法も検討したい。

（質問）無償分も含めた総事業費に対し、参加者を60名とすると一人当たりの費用が単純計算で3万円強となる。加入が増えるほど単価が減るような計画と説明されていたが、どのような考えかもう少し詳しく伺いたい。

（提案者回答）歩数計の購入など情報インフラの整備に初期投資が必要となる。参加者に最初は歩数計を貸与するが、継続される方には購入していただく仕組みを考えている。

（質問）現在参加している70名というのは東京電機大学の研究時からの参加者か。

（提案者回答）大学の研究に参加されていた方も一部いるが、ほとんどはアリプロとして活動を始めてから応募された方である。

（意見）競争意識を高めることで継続を図る計画となっているが、健康増進の観点からは、個人個人に目標を立てて進めていった方が効果的ではないか。

（質問）対象を40歳以上に引き下げたことはよいと思うが、成年被後見人や認知症のような方まで対応できるのか疑問である。費用もかさむのではないか。

（提案者回答）グループの中で励ましあいながら取り組むことで、ひとつのコミュニティが形成されるのではないかと期待している。また、若いうちから取り組むことで、慢性疾患の予防効果なども期待でき、結果として医療費の抑制にもつながるものと考えている。

（意見）協働事業としての市のメリットを考えると、効果に伴うデータの共有が重要になってくるので、そうした仕組みについても検討していただきたい。

(質問) 健康増進課の事業との棲み分けはきちんとできているか。

(提案者回答) プレゼンで示したとおり、協議の中で棲み分けは済んでいる。健康増進課の事業には参加してこなかった地域の方を対象としていく計画となっている。

(意見) 健康に関する個人情報是非常にセンシティブであるので、その取扱いについては十分に留意し、協定にも確実に入れていただくようお願いしたい。

## 提案7 アドラー心理学による「勇気づけコミュニケーション」のすすめ (勇気づけサークルでこぼこピース)

### 提案者の発表

・パワーポイントを使い、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

### 質疑応答

(質問) アドラーは近年さかんに取り上げられており、十分な知識なしに啓発講座を行うのは危険に思われる。また、子育て支援の内容がなくなっているように聞こえるが、その点について伺いたい。

(提案者回答) アイデア審査で幅広い市民を対象とした内容にしてほしいという意見が出ていたので、講演会については子育て世代に限定せず多世代を対象とした。一方、連続講座については子育て世代を対象とした。アドラー心理学はすべての心理学や啓発の根幹となっている考え方であり、実践の心理学である。今回使用するテキストはアドラー心理学をもっとも理論立てて解説しており、啓発講座には最適の書である。

(質問) 講演会1回と連続講座2回を少ない予算規模で行う中で、どの程度の啓発効果が見込めるのか。また、幅広い対象の方に参加してもらうためになにか工夫はされているのか。

(提案者回答) 2日でひとつの連続講座とし、同じ内容の連続講座を2回実施する。1回は平日、1回は休日に実施することで、より多くの方が受講できるよう計画している。また、はじめての試みでいきなり大きな事業計画を立てても参加者数など予測できない部分もあるので、今回は提案のとおり規模での実施とした。

(質問) 男女共同参画事業との関連付けが明確になり、さらにはニーズのある市民が自分に役立つ講座と理解できるような事業タイトルを、講師や市と検討していただきたい。

(提案者回答) 副題を付けるなど、わかりやすく内容が伝えられるよう講演と講座のタイトルは工夫していきたい。

(質問) この提案と男女共同参画事業との関連性について各委員から懸念が出ている。

この点について、市はどのように考えているのか。

(市民活動推進課回答) 市や他の自治体でも多くの啓発事業を実施しているが、男女共同参画を前面に出していくとなかなか参加者が集まらないため、様々な問題に絡めて企画を立てるとというのが近年の男女共同参画行政におけるひとつの流れである。その中で、「ひとりひとりの個性と能力を發揮できる社会」という男女共同参画社会の定義と、自分らしさを肯定することを啓発する今回の提案には共通点があり、講座として十分実施していけるものと考えている。

### ③ 審査結果発表・講評

粉川委員長の進行のもと、各委員の評価を集計した審査結果を次のとおり発表した。

#### 【審査結果】

提案	提案名 (提案者)	○	△	結果
1	道作古墳群歴史広場の維持管理事業 (NPO法人小林住みよいまちづくり会)	10	0	適
2	竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業 (NPO法人エコネットちば)	10	0	適
3	印西市木下地区歴史講座 (木下まち育て塾)	9	1	適
5	地域住民への身体活動増進プログラムの提供 (ALipro)	8	2	適
7	アドラー心理学による「勇気づけコミュニケーション」 のすすめ (勇気づけサークルでこぼこピース)	7	2	適

※提案7の審査は、関係者の北村委員が席を外し、9名により実施。

審査結果発表後、提案ごとの講評として、粉川委員長と志村委員が模造紙に貼りだした各委員の意見を集約して紹介した(下記参照:提案1~7)。

最後に、粉川委員長から全体の講評として、協働の取り組みは全国に広がっている一方、成果指向の新しい動きが出てきていることについて紹介があった。そうした、協働の成果に客観的な評価を導入する制度は国レベルでも検討がはじまっており、そのひとつの事例として、粉川委員長が関わっている生活保護を受ける若者を支援する尼崎市のプロジェクト(ソーシャルインパクトボンド)を紹介した。そこで確認されたことは、協働事業が大きな成果を生むためには、市民、NPO、行政という立場の

異なるステークホルダー同士が密にコミュニケーションをとることが不可欠だという事実であり、印西市においても、特に長期的に協働事業に取り組んでいる団体と担当課にはどうしてもなれ合いが生じてしまうと思われるが、あらためてその関係を見直していくことも必要であるとアドバイスした。そして、今回審査を通過した5件の提案に期待する旨を伝えた。

## 提案1 道作古墳群歴史広場の維持管理事業（NPO法人小林住みよいまちづくり会）

### 【各委員の意見】

#### やっぱり広報

- ・市と協力して、広報ツールを整えてより多くの人に来てもらえる発信をしてほしい。
- ・まだまだ認知が少ないので広報活動を強化願いたいこと及び、考古学関係の学界やその他関係団体との連携も図っていただきたい。
- ・見学会の来場者を更なる動員増加を見込める活動をお願いします（小林地区外からの動員）。
- ・協働事業として価値が認められるので、多くの市民に知って頂けるようにHPや広報誌の内容について市と協働で充実して行くよう努力して頂きたい。（出土品や文化的意味についても広報して頂きたい。）
- ・道作古墳群を活用した種々の活動が、地域自治会のみならず、印西市全域に周知されるよう、継続的に検討して下さい。

#### 市との協働で周知・歴史ロマンを多世代に

- ・アンケート結果の反映、審査員の意見の反映等、取り込んで取り組みをしていることは素晴らしいことだと思います。これからも周りの意見等の反映宜しくをお願いします。
- ・市役所へのお願いです。交流の杜の歴史資料センターには、小林古墳群の出土はあるが、これだけ規模の大きい古墳群の紹介をもっとして欲しい。
- ・ロマンを感じさせる資料はもう少し濃いものにしていただきたい。（地理の勉強より歴史の部分で充実してみても）
- ・行政との協働、特に市側が何をやっているかが見えてこない。協働であれば、市は〇〇をしているということがはっきりと示される必要がある。
- ・HP、瓦版を拝見し、手入れの様子より、長年の活動の御苦労が伝わってきます。事業内容もアンケート結果を反映できるよう具体的だと思い、継続の意義を感じます。より市民にとって安心できる場となるよう続けて下さい。学校に出張講座に行くなど広めていくことはとてもよい方法だと思います。

#### 期待してます

- ・貴法人の他の事業との連携をさらに強めることにより、当事業のソフト・ハード面での拡充をめざして下さい。



- ・メンバーの人的資源活用、ボランティアの組織化がこの事業の強みです。⇒継続を期待しています。
- ・市民の憩いの場として、気楽に立ち寄れるようさらなる整備をお願いします。（例えば、常設の簡易トイレの設置など）
- ・印西の歴史のロマンを広く印西市民に知らしめていく活動は、それに関連するイベントとともに、地味な協働事業であるが、重要な維持管理事業を続けていると思われる。

## 提案2 竹袋調整域と周辺地域の維持管理事業（NPO法人エコネットちば）

### 【各委員の意見】

#### 実績の評価

- ・心を込めた大きな労働があつての癒しの空間だとその努力を労いたいと思います。この維持管理を続ける為、団体の負担を増やすことなく、市との分担をすすめていただきたいと思います。
- ・ウォーキング大会など手入れされた場所をみんなで楽しめる企画は、知らない方にも知っていただく機会と健康増進のアイデアとしてとてもおもしろいと思います。多勢の人に自然を味わっていただけると嬉しいですね。
- ・市民に愛される憩いの場となっているこの環境を是非継続して下さい。市民のニーズが高い事業である。市との協働事業としてふさわしいと思われる。
- ・自然を相手にしたお祭り、なかなか花の見頃と一致させるのは難しいかもしれませんが、今後も癒しの場、憩いの場として市民が楽しめる場として頂ける様をお願いします。

#### 実施する上での留意点

- ・繁茂する草の除去や、舗装のクラック修繕等も市と協働で解決する仕組みを考えていただき、課題解決を図っていただきたいと思います。
- ・コスモスまつり等のイベント事業については、協働事業のメニューのひとつとして計上した方が望ましいのではないかと。団体負担が計算上明確になって良いと思う。
- ・事前協議チェックシートにおいて、事業費の積算について、一部の仕様が確認できない旨の記載がありますが、事業の実施に当っては、仕様を具体化し、効率よく経費を活用するように努めて下さい。
- ・将来に向けても、継続的に調整池周辺の環境整備ができるようなしくみについて市と一緒に考えていって頂きたい。周辺への健康増進施設の整備というのはひとつの良いアイデアと思われるので継続して市と協議して頂きたい。

#### 担い手

- ・将来的には、人材問題（後継者等）の課題があると考えられますので、是非、解決されて継続していただきたいと思います。
- ・活動の担い手が増える工夫を。

- ・学校の環境教育活動と連携するなど、若い世代へのアピールもいいのでは。

#### 事業継続の方法を検討

- ・事業の落とし所を今から考えておいて下さい。このまま同じ事業内容では、いずれ見直しが必要になると思います。どこまでやるか、目標を定めておくことが必要だと思います。(以前も同様な意見を述べましたが…。)
- ・水辺の維持管理をNPOが8年目実施というのは協働事業の成功例ですが、協働事業として提案が難しくなる今後に備えて、今からこの事業の継続の方法を考えて下さい。
- ・近くに福祉施設、木下駅、印西市役所があり、いつもきれいな水辺の場を提供(市民に)することは重要だと思う…。しかし、每期、每期、同じように定期的な草刈、花畑の整備、排水口のごみの除去、水草の除去等をくりかえしている。そして、每期300万越えの積算金額(コスト)が発生している。アスファルト道路等をもっとふやすとか、調整池をもっと深くし(2m以上の深さ)その底をセメントで固めるとか、そろそろ抜本的な対応が必要かと思われる。

### **提案3 印西市木下地区歴史講座(木下まち育て塾)**

#### **【各委員の意見】**

#### 成果指向で

- ・事業提案は歴史講座ではない。協働事業の必要性、効果を明確に説明できるようにしてほしい。
- ・歴史を学んだことによる効果を意識した事業にして下さい。
- ・講座を聞いて、果してどれだけの方が自分の地域に愛着を持つのか疑問。
- ・地域社会が抱える課題として新旧地区の融合をテーマとしているが、現状効果は稀薄である。

#### 偏ってはダメ

- ・講座のジャンルを広げて、興味のある人を増やしていくことも必要だと思います。
- ・歴史マニアの集まりとしか思えない。
- ・昨年から大きく変っていて評価できます。但し、次のステップとして他の歴史研究との関連もありますが、講座内容を少し広くとらえて、動員数拡大をおねがいます。

#### しっかり集客

- ・これまでの内容から一步ふみこんだ企画に進んだことは一定の評価ができる。一方参加者が広がることも重要で、集客には十分留意していただきたい。
- ・今までの提案内容を刷新され、体験型をとり入れることは、とても興味のもてるものと思われる。
- ・木下地区だけでなく、活動範囲が広がることで新しい参加者も増加する期待ももてるので、広く告知の方法を考えることが必要と思う。

- ・講座内容を刷新されるとのことですので、会場の広さの為の制約はあるかもしれませんが、受講者数の増や受け手の裾野が広がるように、企画の広報や活動実績のアピールの仕方等、工夫を重ねていただきたいと思います。
- ・活動としては評価される内容であるが、課題としているNT地区住民への故郷意識の醸成という面では、対象としている市民や対象が限られているように思われる。市と協働で、講座や活動内容が多くの市民に伝えられるような広報や、活動範囲（対象市民）の拡大を検討して頂きたい。

#### 事業をさらに一工夫

- ・地域の歴史講座開催事業を継続されることは、企画内容のマンネリ化、参加者数減少、固定化との闘いだと思えます。これまでの受講生、塾生を人的資源として事業発展のための試みを大胆に続けて下さい。
- ・団体の自主事業として（ボランティアガイド）展開していくことも検討してはどうか。
- ・経費が少々かかるように思うので、もう一度、見直す必要があると思う。

#### 結果が楽しみ

- ・地元の歴史を知るということは、地元への愛着心、誇りに繋がると思えます。地元活性化に向けて、幅広い活動を続けて頂きたいと思えます。
- ・江戸から明治にかけて木下街道という「道」と利根川という「川」の両面によって発展した木下という都市を、今回は一層市民に知らしめる講座内容になっていて、広がりを感じます。

### **提案5 地域住民への身体活動増進プログラムの提供（ALipro）**

#### **【各委員の意見】**

#### 実施に向けての意見

- ・市民の健康増進のためには、必要な事業だと思えますが、対象者の絞り込みは、市民への理解を得るのが大事だと思うので、御検討願います。
- ・参加者にある程度費用負担をさせるのはどうでしょうか。逆にそうすることで長続きすると思われる。
- ・40才以上の地域住民に対象を拡大したことで参加される幅が広がったと思うが、費用がかかりすぎるように思うので、初年度は参加募集の人数を少なくすることも考えられると思う。
- ・プログラム（協働の内容）は明確であるが、すでにスマートフォンアプリを活用した類似のプログラム（歩数計つきのスマホがほとんど）があるし、費用対効果の面で委託費（市から団体への委託費119万円）は、市民への無駄な二重投資の意味合いが強いかないと考えます。40歳以上の中高年を、このプログラムのターゲットにしたのは、適切だと思う。（65歳以上のターゲットから変更）

- ・ 予防医療分野に関する取り組みは重要であると考えますが、市との協働については若干課題があると思います。
- ・ 競争意欲だけを強調するのはいかがなものか。逆にやりすぎて健康を害することにはならないか。
- ・ 健康にかかわる情報は、センシティブな個人情報であり、それらを共有する場合の協定についてはしっかりと整えて下さい。
- ・ 効果測定ができるのが大事です。どこまでできて到達したのか、目標を達成したのかがないと、ダラダラになるのではないかと気になります。
- ・ 身体活動増進という観点からは興味ある取組みであるが、市との協働事業という面からすると、活動のみならず効果の確認や検証が重要になると思われれます。成果データの市との共有や活用について引き続き検討し、有効なしくみを構築して頂きたい。
- ・ 5年後自立という目標達成のための工程表を（早く）作って下さい。

#### 期待すること

- ・ 市民・大学・行政が一体となって取組む事業として、独自性のある事業であると思います。参加する市民の方が永く活動に参加し続けることが、ポイントになってくると思いますので、運用の際には、工夫・試行錯誤を積み上げていき、活動の定着を目指して下さい。
- ・ 参加者のコミュニティが拡がり、活性化することを期待します。
- ・ 2つの大学との連携を進めて新しい身体活動増進「印西モデル」ができることを期待しています。
- ・ 高齢社会に向かって予防医療、健康年齢向上の為に是非頑張ってください。市の医療費負担の軽減に繋がるものと思われる。

### 提案7 アドラー心理学による「勇気づけコミュニケーション」のすすめ

#### (勇気づけサークルでこぼこピース)

##### 【各委員の意見】

#### まずはスタート・目標設定

- ・ アドラー（“嫌われる勇気”はすでに爆発的に売れている）心理学による新たな視点での「勇気づけ勉強会」に魅力を感じる。又、積算金額年間15万円も適切だと思う。
- ・ 協働事業は、なにもすぐに目に見える成果のみを追い求めてはいけないと思う…。それのみだとどうしても薄っぺらになると思う。市との協働事業として、ひとまずスタートすべき価値を感じる…。
- ・ いつまでに何をどうしたいのか、どうすれば良いのか、落とし所を見つけておくことが必要ではないでしょうか。⇒目標設定

#### 協働の意義・男女共同参画としての位置づけ

- ・日頃の「勇気づけサークルでこぼこピース」の活動の延長ではないのか。
- ・市との協働する意義はどこにあるのか。
- ・いかに、市との協働事業であるかを参加者に知らしめることが重要だと思う。では、どんな風にして、市が参画するのか、そのあたりが希薄である。
- ・「男女共同参画」とアドラー心理学との関連がまだよく理解できないが、印西市が「アドラー心理学」のまちとして話題になるのもいいかな…と思います。
- ・男女共同参画とアドラー心理学との関わりをもっと解り易くした方が良いと思います。
- ・男女共同参画に関わる啓発事業という視点では、やや講演内容との関係性が明確でないように思われる。指定テーマの趣旨が伝わるように講演会テーマや内容について整理して頂きたい。
- ・市との間で、男女共同参画事業として整理されたことは確認できた。一方、事業タイトルに「アドラー心理学」と入れることについては一定の違和感も感じる。「アドラー心理学…」が男女共同参画啓発であると理解される工夫をしてほしい。

#### 事業の工夫でクリア

- ・指定テーマ型としての初めての取組みとなりますので、市・団体ともに、事業の実施の過程で、出てきた課題・懸念を整理し、協働事業としてより相応しい事業となるよう努めて下さい。
- ・アドラー心理学の基本的な考え方と男女共同参画との関連付けを講義の中で説明していただきたいと思います。

以上